



竹林の風

STOP!いじめ!!ひとりで悩まないで(いじめ防止リーフレットの配布)



学校支援課では、「いじめ防止リーフレット」を作成し、管内すべての小学校、中学校、高等学校、そして、特別支援学校に配布いたします。

表面(画像の左半分)は児童・生徒と周囲の人たちへのメッセージです。いじめはどの子供にも起こりうるものであり、苦しんでいる子供には一人で抱え込まず、身近な大人に相談すること、周囲の人たちにはSOSに気付いて声がけすることの大切さを伝えたい、という考え方で作成しました。そこで、これまでの「いじめの未然防止」の考え方を踏まえ、

よりメッセージが伝わるような構成や言葉の表現などについて、いじめ・不登校等対策チームで検討を重ねました。

裏面(画像の右半分)は子供たちの成長に関わる保護者の方々をはじめ、地域の方々に対するメッセージも込めて構成しています。いじめ未然防止のための子供との関わり方や、早期発見につなげるためのチェックリスト、そして、大人も一人で悩まないようにということで、相談機関の連絡先も掲載しております。

各学校には3月中にお届けする予定です。新年度に入りましたら、学年開きや特別活動などに関連させながら児童・生徒に配布し、ご指導いただきますようお願いいたします。また、校内掲示用に大きなサイズのリーフレットもお送りする予定ですので、いじめの未然防止や早期発見に御活用いただきますようお願いいたします。

年度末・年度初めの各種届出について(総務課)

3月5日に開催されました、年度末及び年度初めの事務処理合同研修会では、コロナ禍ということで、各中学校区及び地域学校園ごとに、管内で28名の方々にご参加いただきました。当日中に、各中学校区及び学校園内で伝達をいただいたこと、大変お世話になりました。

さて、いよいよ年度末が近づきますと、新年度に異動される教職員の方もおられると思います。異動等に伴う引っ越しにより通勤手当や住居手当に変更が生じる方も多く、また、扶養親族が増えて扶養手当が変わる等、各種手当の変更が多い時期でもありますので、その際には忘れずに各種届を出していただくようお願いいたします。

各種届等で何かご不明な点がございましたら、各学校事務職員の方にご相談いただきますようお願いいたします。



教職員一人一人の誇りと品格は 教育への信頼を確たるものにする

豊かに生きる大人の学び「ふれあい学習出前講座」

ふれあい学習課は、令和3年度も学校や地域などにおける大人の学習機会「ふれあい学習出前講座」を実施します!

「ふれあい学習出前講座」は、参加者同士の交流や、日頃行っている活動のふりかえりを行い、気付きにつながる学習機会を無料で提供するものです。以下のプログラムがありますので、各校における実施の検討をお願いいたします。



① 祝新入学!
我が子のための得ルーツ
(家庭教育・就学時健康診断)



② 自己肯定感アップで家族が幸せ
令和の子育て講座
(家庭教育・PTA研修)



③ 自分は大丈夫!?
そんなあなたの人権診断
(人権教育・学校教職員研修)



④ こころホカホカ!
人権ワークショップ
(人権教育・PTA研修)



⑤ 地域の笑顔で花開く!気軽に始める
地域学校協働活動のススメ
(地域連携・学校教職員研修等)



※講座内容を一緒に考えることもできます。お気軽に御相談ください。
(ふれあい学習課 ☎028-626-3183)

「1番になりたかった」に思うこと 所長 宮澤文洋

私事で大変恐縮ですが、次女の話をしていただきます。タイトルの「1番になりたかった」は、彼女が小学校で初めての運動会、徒競走が終わって帰ってきたときに発した言葉です。その後もしばしの間、曾祖母に向かって嘆いておりました。曾祖母は、それを「そうだったね。1番になりたかったね。」と繰り返しながら、私に「こんなに小さくても、1番になりたいって思うのね。」と語りかけました。

その後、ある書物の中に出てくる一説が、このこととリンクしました。『子供というのは身の程知らずに伸びたい人』のことだと思ふ。子供は伸びたいという精神においてはみな同じだ。力をつけてたくて燃えている。その塊が子供である。」です。

そして、目の前の子供たちのそんな姿に應えるならば、自分は研究し、勉強の苦しみと喜びを感じ、伸びたいという希望に溢れていなくてはならないのだと、途方もなく大きく考えたことを覚えています。ただし、研究を続けることは、なかなか難しいことだというのが実感です。因みに、娘の賞状は「努力賞」でした。

今年度は、コロナ対応の1年でした。管内各小中学校におかれましては、市町教育委員会のご指導のもと「子供たちの健やかな成長のために」を軸に、学校の状況を踏まえながら、行事等の実施をご判断されてきたことと思います。令和3年度も「身の程知らずに伸びたい人」の傍らに立ち、その思いに寄り添っていただきながら、教職員の皆さん一人一人が各学校の目指す児童・生徒像を共有し、一丸となって日々の教育活動に励む。そんな学校風土が更に根強くなることを期待してやみません。

さて、竹林の風は、年に3回発行の予定でしたが、コロナ対応という状況の中、教育事務所として、教職員の皆さんに先手を打った情報提供はできないか、たよりをきっかけにコミュニケーションの機会を提供できないか、そして、学校の応援団でありたい、おこがましくもそんな思いで発信させていただきました。日々学校教育活動を支えてくださっている皆様に、深い敬意と感謝を込め、令和2年度のたよりを結びたいと思います。1年間ご笑覧いただき、ありがとうございました。